

# 令和5年度 東北歴史博物館中長期目標達成実績(令和6年3月末現在)

東北歴史博物館は、第2期中長期目標(前期)を達成するため下記事項を柱に据え、8つの項目ごとに活動方針を設定し取り組みます。

- 1 暮らしを潤す博物館(豊かな心プロジェクト)
- 2 学び・繋がり・地域に貢献する博物館

## 1 常設展示・企画展示

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 常設展示等更新ワーキンググループを組織し、展示室等の更新・改善について具体的な検討を行った。特に、展示施設設備のリニューアルについて、概要、事業費等の検討に着手した。</li> <li>○ テーマ展示や映像展示については、資料の入れ替えや新企画の実施、映像展示場所の追加により、館蔵資料の活用と展示の充実につなげた。次年度以降も魅力的な常設展を目指し、継続的に取り組む。</li> <li>○ 宮城・東北地方の歴史と文化に関わる魅力的な展示の実施に取り組み、満足度の高い展示ができた。ただし、準備・運営については、広報活動等に課題が残るものとなったため、今後に向けて改善を図る。</li> <li>○ 大規模な共同企画展を実施し、多様な世代の来館者の利用を促進できた。次年度以降も大規模巡回展を積極的に誘致し、満足度の高い展示を目指して準備に取り組む。</li> </ul>							
--	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 何度も訪れたい常設展示を目指します。	企画	①	○	展示の更新と展示替えを計画的に行います。	<p>(企画部企画班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 常設展示等更新ワーキンググループを組織し、常設展示の現在の課題を共有するとともに、必要なプロセス及び短期・中期・長期の更新と展示替えについて協議・検討を進めた。</li> <li>○ 短期の更新については、総合展示室の資料やキャプションの小規模な更新と照明のLED化、アナログデータ(展示映像)のデジタルアーカイブを進めた。</li> <li>○ 中期の更新については、具体的な検討に着手した。</li> <li>○ テーマ展示については、館蔵資料の活用推進と企画の更新に務めた。新企画を各展示室で実施し、そのほかの展示でも展示資料や解説の充実を図った。</li> <li>○ 映像展示については、総合展示「村におけるワラの神々」導入映像を中央ロビーで放映することで、展示内容の理解を深める環境を整えた。</li> </ul>	3	短期の更新について実際の作業に着手し、また、中期の更新については具体的な検討に着手できたことは一定の評価ができる。
	管理	②		適宜、総合展示室等の設備の更新を行います。	<p>(管理部管理班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県有施設老朽化対策として、年次整備計画を定時に見直ししており、展示施設設備のリニューアル時期を集中整備を行う年度に位置づけ、企画班において概要、事業費等について検討を開始した。</li> </ul>	4	施設長寿命化対策の計画策定において、集中工工期の設定でリニューアルのロードマップが館内で共有された。今後プロジェクトを立ち上げるにあたって、適切なマイルストーンを設け、各各班ともに関係各所との共有を図る必要がある。
(2) 多様な世代の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展を開催します。	企画	③	◎	宮城・東北地方の歴史と文化に関わる特別展を開催します。	<p>(企画部企画班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前年度の実績に基づいて改善点を検討し、魅力的な展示の実施に取り組んだ。</li> <li>○ 「悠久の絆 奈良・東北のみほとけ」展は、アンケート調査の結果、展示内容は高い満足度を得ることができた。鑑真和上坐像と勝常寺薬師如来三尊像の展示期間中は多くの観覧者を集め、満足度も非常に高いものであったが、展示期間が限られていたこともあり、観覧者にとって多少の混乱が見られた。</li> <li>○ 「古墳をつくる人びと」展は、子供向けを意図したことで、簡単に理解できてわかりやすい解説は大人でも好評であった。アンケート調査では非常に高い満足度を得られたが、観覧者数は5,969人と目標(12,000人)を大きく下回った。準備期間が十分でなかったため展示の意図に合致した広報活動を満足に行うことができなかったことが原因としてあげられた。</li> </ul>	4	前年度の実績に基づいて改善点を検討し、展示内容を工夫して魅力を向上させることで、来館者の高い満足度を得られた。展示準備と運営については館内で共通認識を作り、適切な目標及び進捗管理を行う必要がある。
	企画	④		魅力的な巡回展を誘致・開催し、多様な世代の来館を推進します。	<p>(企画部企画班)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「悠久の絆 奈良・東北のみほとけ」展の観覧者数は、54,663人であり、目標(80,000人)を下回ったものの、過去4番目の数字を記録した。また、メディアへの露出も多くあり、当館の認知度の向上につながった。一方で、アンケート調査の結果、混雑の対応等で不満の意見が目立った。</li> <li>○ 令和6年度の大規模巡回展を2件誘致し、その開催に向けて準備を進めた。</li> </ul>	4	今年度は1件の共同企画展を開催し、来年度は2件の巡回展を誘致してその開催に向けた準備を進めることができた。今後も積極的に魅力ある巡回展を誘致し、幅広い世代の利用促進に繋げていく必要がある。

## 2 教育普及

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育普及事業の参加機会の拡充に取り組み、積極的な広報活動を展開して、より多くの利用者を得ることができた。</li> <li>○ こども歴史館や図書情報室では、魅力的な企画を随時展開し、展示室以外の利用促進を図ることができた。</li> <li>○ 多賀城創建1300年記念事業として、体験学習施設や学校で利用できる、最新技術を用いた歴史体験機器の導入を進めた。</li> <li>○ 学校団体向けに学習シートの活用や学年に応じた利用プログラム、具体的な見学プランを提案するなど、効率的に館内を利用できるよう支援することで、当館の魅力を発信することができた。</li> </ul>
--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 参加しなくなる多様で親しみやすい教育普及事業を目指します。	企画	⑤	○	利用者のニーズや興味関心を捉え、参加しなくなる講座・体験教室・体験イベントを実施し、こども歴史館や図書情報室を充実します。	【企画部企画班】 ○教育普及事業全体の参加人数を増やして、内容の充実に努めたことで、より多くの利用者を得ることができた。 ○体験教室や体験イベントは積極的な広報活動を展開した。特に、新規の参加者獲得のため、学校を対象に電子媒体を利用した広報活動を実施した。 ○こども歴史館や図書情報室では、特別展と関連した企画を逐次展開し、展示室以外の利用促進を図った。	3	新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、教育普及事業全体の参加人数を増やしたことで、多くの利用者を得ることができた。さらなる新規利用者の獲得のため、積極的な広報活動を展開する必要がある。
(2) 学校が博物館を効果的に活用できる環境を目指します。	企画管理情報サ	⑥		ICTを活用した資料の紹介など学習支援を充実し、学校が利用しやすい環境を整備します。	【企画部企画班】 ○多賀城創建1300年記念事業として、多賀城跡出土資料のデジタルデータ化を実施して、学校で利用できるプログラム開発と対応する機器類の設置に向けた準備を進めた。 ○利用の少ない中学生向けの学習シートの開発を進めた。 【管理部情報サービス班】 ○下見の段階で見学授業のプランが固まっていない教員や初めて当館を利用する教員向けには、学習シートの活用方法を示したり、シアター視聴の内容選定に際して学年に応じたプログラムを提案したりするなど、効率的に館内を利用できるよう支援した。また、具体的な見学プランの提案を行う事を通してより当館の魅力を発信することができた。	3	学習支援の強化について、学校側の期待も大きいことから、学校団体が活用しやすい情報の発信を意識して、今後も継続利用の促進に向け取り組み、一層の充実を図る必要がある。

## 3 調査・研究

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 調査研究事業は、博物館活動の基盤という意識を館員で共有しながら、県民の文化向上を目指した事業を推進するよう努めた。そのような中、調査研究の予算が逼迫する状況に鑑み、外部研究との連携や外部予算の獲得を進めた。</li> <li>○ 調査研究事業は博物館活動や県民に対し、展示及び各種講座等とおしてその成果や情報が還元されてこそ事業として完結するものであることから、連携や資金獲得それ自体が「目的化」しないよう注意を払いながら事業を推進していく必要がある。</li> </ul>
--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 宮城・東北地方の歴史・文化等に関する調査研究を積極的に推進し、その成果を広く公開します。	学芸	⑦	◎	研究テーマや目的を明確化し、成果を積極的に公開します。	(学芸部学芸班) ○各分野において、年度当初に設定した研究テーマや目的に沿って、限られた予算内で調査研究を進めた。また、その成果は研究紀要等で公開したほか、れきはく講座等でも県民に広く還元することとしており、業務は概ね順調に進行した。	4	調査研究事業費が削減されるなか、成果の先細りを招かないよう、より一層の効率化や合理化を図りながら業務に当たった。
(2) 調査研究事業のための必要な予算の充実を目指します。	学芸	⑧		科学研究費や国庫補助金等の獲得により外部予算の導入を図ります。	(学芸部学芸班) ○科研費3件、地方公共団体等への事業推進協力に起因する調査費6件を獲得して業務は概ね順調に進行した。	4	当初計画に従い概ね順調に外部予算が導入されており、積極的な外部との連携協力及び調査研究の進捗が認められた。

#### 4 資料の収集と保管・活用

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文化財を未来へ確実に受け渡す責務を果たすべく、資料受納、収蔵品管理、収蔵環境管理、資料出納、情報公開など多岐にわたる業務を担っており、事業は概ね適正に推進した。</li> <li>○ 浮島収蔵庫の老朽化への対応、同収蔵庫資料整理やデータベース充実化への対応などについては今後の課題であるが、今年度はその準備作業の一環として、移動に向けた資料総数の把握と業務量の積算を進めた。</li> </ul>							
---	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 宮城・東北地方の歴史・文化等に係わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。	学芸	⑨	◎	研究分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。	(学芸部学芸班) ○研究分野ごとの資料収集方針に基づき計画的かつ積極的に情報収集を進め、8件の資料を受贈・受託した。また、美術品等取得基金を活用し、資料1件を購入するなど、業務は概ね順調に進行した。	4	資料収集は相手があって成り立つものであり、数値の多寡で評価するものではないが、館の資料収集方針に基づき適正かつ円滑な運営が認められた。
	学芸	⑩		実物資料はもとより画像等の二次資料を含めた博物館資料等に適切に対応します。	(学芸部学芸班) ○二次資料について収集活動を進め、約1,700件の登録・配架作業を行い、業務は概ね順調に進行した。	4	当初計画に則った事業運営を行っており、着実な進展が認められた。
(2) 収集した資料をその特質に応じて保管管理するとともにデジタルアーカイブ化を推進します。	学芸管理	⑪		収蔵環境を整備し、より安定的な資料保全を図ります。	【学芸部学芸班】 ○月ごとの保存環境調査及び上半期保存環境調査(委託業務)等の実施により収蔵環境を精査して保存管理上の諸問題の改善に向けた検討を進め、獣害及び虫菌害など頻発する危険因子の除去を計画的に行い、業務は概ね順調に進行した。	4	浮島収蔵庫に新たな危険因子が出現するなど従前に増して資料の保存管理は困難の度合いを高めているものの、計画的かつ合理的な対応を行い資料保全が図られた。
	学芸情サ	⑫	○	収蔵資料のデジタルアーカイブをさらに充実させ、インターネット等を活用して情報公開を推進します。	【学芸部学芸班】 ○収蔵資料及び図書資料約3,600点の整理・データベース化を計画的に推進するなど、公開に向けた諸作業を着実に進め、業務は概ね順調に進行した。	3	当初計画に則った事業運営を行っており、着実な進展が認められた。

#### 5 情報の発信

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広報活動については、催事テーマに応じて広報先や方法等を検討して効率的かつ効果的な情報発信を行った。</li> <li>○ SNS活用により情報発信をすることで、フォロワー数が少しずつではあるが増加し、幅広い世代への情報発信を行えた。</li> <li>○ みやぎ電子申請サービスの活用が定着しつつあり、以前に比べて事務改善が進んだ。</li> <li>○ 多賀城市との連携を推し進め、多賀城創建1300年記念事業や観光情報を発信する事ができた。</li> </ul>							
--	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 情報リテラシーに十分配慮した上で、ICTを活用して速やかで効果的、魅力的な情報を発信します。	情サ	⑬	◎	幅広い世代の来館者の増加につながるよう、実行力のある効果的な広報を展開します。	(管理部情報サービス班) ○本館の基本情報をはじめ、特別展・催事など、その時々タイムリーな情報発信が出来ている。また、内容を加味し、情報の受手が目にし易い時間(9:00、12:00、17:00、19:00の4区分)を狙い発信した。その結果として、SNSフォロワー数が700件程度(12月現在)増加した。また、SNSをフォローすることを条件としたプレゼント企画も有効であった。	3	SNSを中心とした情報発信については、効果的な活用により催事や特別展などの情報を、幅広い世代に向けて伝えられるよう今後も工夫が必要である。
	情サ	⑭		スマートフォンやタブレット等の情報端末の普及・進化に合わせて、最適な情報サービスを提供します。	(管理部情報サービス班) ○みやぎ電子申請サービスの活用が定着しつつあり、催事受付に関する電話での問い合わせは全体の2割程度で済んでおり、昨年度に比べても問い合わせ件数は減少した。	4	みやぎ電子申請サービスの活用が定着し、結果、電話等の問い合わせが減少し事務改善が図られた。
(2) 地域に根ざしたコミュニケーションに努めます。	情サ	⑮		来館者のニーズを「距離」「関連性」「知名度」の指標で分析し、有益な情報を提供します。	(管理部情報サービス班) ○特別展では、QRコードを付けたパネルに加え、名刺サイズのアンケートカードを多めに配置することで携帯端末からのアンケートへの機会を拡大した。また、そのアンケートでは、比較的若い世代からの回答が多い傾向であったため、会期中で高齢層向けに紙媒体での記述式アンケートを取り入れたことで、回答率は例年の2.0%から、2.5%に回復してきた。	3	来館者ニーズの把握・分析を更に推し進め、より有益な情報を提供できるよう検討を重ねる必要がある。
	情サ	⑯	○	地域の魅力・催事などの把握に努め、連携を図っていきます。	(管理部情報サービス班) ○「悠久の絆 奈良・東北のみほとけ」展の地域紹介コーナーにおいて、共催である多賀城市のPRブースを設置し、多賀城創建1300年記念事業や観光情報を発信するなど連携を図ることができた。特に、パンフレットや記念事業特製シールは会期中で度々足りなくなったため、その都度多賀城市担当課との連絡調整を行い連携を図ることができた。	3	多賀城創建1300年記念事業に向けた、多賀城市との連携が図られた。今後も情報共有を密にして連携協力できる部分を増やしていく必要がある。

## 6 地域連携・県民参加

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○多賀城創建1300年記念事業と関連した取り組みについて、多賀城市担当課と連携して実施することができた。</li> <li>○博物館ボランティアの活動体系を見直し、積極的なボランティア活動を支援した。ボランティア活動への参加の場を広く県民に提供するための広報活動に積極的に取り組んだ。</li> <li>○博物館友の会の自立した運営が進められるよう各種企画立案など、さまざま工夫をしながら必要な支援を行った。</li> <li>○キャンパスメンバーズのサービス向上に向けた取り組みを進め、この制度を利用した学生の展示観覧者数の常設展示や特別展示の増加に繋がった。</li> </ul>						
---	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 近隣市町や関連団体、学校等と連携・協力し、文化観光その他の活動を回り地域の活力向上に取り組みます。	情サ	⑰	◎	当館や多賀城政庁跡を起点とする、地域の文化観光促進に向けて多賀城市や近隣市町及び関係団体との連携を強化します。	(管理部情報サービス班) ○多賀城創建1300年記念事業の一環である多賀城跡南門のマンホールカードの配布及びマンホールの蓋の展示を、一定期間当館で行う計画を協議する等連携を図ることができた。また、多賀城創建1300年記念事業の機運を高めるため、関連事業の情報をデジタルサイネージに掲載するなど、多賀城市担当課との連絡調整を行い広報活動を実施した。	3	多賀城創建1300年記念事業に向けて、多賀城市と情報交換を密に行い、更に強い連携が必要である。
	企画	⑱		博物館ボランティア業務を円滑化し、地域の活力向上を図ります。	(企画部企画班) ○博物館ボランティアの活動体系を見直し、今野家住宅や体験イベントの運営補助などに積極的に関わることができた。また、多賀城創建1300年記念事業の機運を高めるため、関連事業の情報をデジタルサイネージに掲載するなど、多賀城市担当課との連絡調整を行い広報活動を実施した。	3	ボランティア活動については、適宜見直しを図りながら活動を円滑に進めることができた。さらに県民が積極的に参加ができるような体制・運営の整備に取り組む必要がある。
	企画学芸情サ	⑲		「博物館友の会」の活動に対し支援をしながら、自立した体制整備に向けて助言、提案をします。	【管理部情報サービス班】 ○「博物館友の会」主催の催事「友の会歴史探訪」に関して、計画や運営方法については、保険手続きなども幹事が行うように働きかけ、自立運営が進められるような助言を行った。また、本館主催の催事に関しては、役員会の折に、利用者としての感想・意見を聞き取った。	4	自立運営に向けて各種企画立案・運営面での支援を行い、コロナ禍にはできなかった催事の実施など活発な活動につなげることができた。
	情サ	⑳		大学等学校単位のキャンパスメンバーズの拡大・利用促進を図り若い世代の獲得に努め、各種博物館活動への参加を誘引します。	(管理部情報サービス班) ○来館されたキャンパスメンバーズの学生・教職員に対して、サービス向上に向けたアンケートを実施し、今後のサービスのあり方を検討した。	3	前年度の取り組みもあり、年度当初に4校の新規加入があった、今後も現加入校へのサービスの在り方と新規加入校勧誘のための周知方法も検討を進める必要がある。

## 7 危機管理

<p>コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○円滑な工事執行と計画的な整備により、来館者と資料の安全が確保された。</li> <li>○非常時に備えたマニュアルの見直し、教育訓練の徹底により、実行性のある体制づくりが図られた。</li> </ul>						
---	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 来館者と貴重な資料の安全が確保・維持される環境づくりに取り組みます。	管理	㉑	○	施設・設備の適切な維持修繕に努めます。	(管理部管理班) ○土木部、文化財課及び施工業者と連絡を密にし、館内への情報共有を図り、円滑に工事執行した。	3	収蔵庫空調設備工事を進めるにあたって、管理班、専門分野と協働して資料の保全等に取り組んだ。
	管理	㉒		様々な災害に対応する適切な物資の確保に努めます。	(管理部管理班) ○非常用発電機の実設計において、非常時の空調機能が早期に確保されるよう、調整を行った。 ○塩釜保健所の非常備蓄が解消・整理されたことから、本館独自の整備を開始した。	3	計画的な設備更新とともに、本館独自の備蓄整備に取り組んだ。
(2) 感染症を含む災害等の緊急事態が発生したときには、被害を最小限に抑え、事業の継続や復旧が図られる体制を整えます。	管理	㉓		避難訓練等を適宜実施し、対応マニュアルをブラッシュアップします。	(管理部管理班) ○県土木部職員による建物保全点検が実施され、指導を受けた箇所等については、予算の範囲内で優先度を定め、修繕等の措置を講じた。 ○本館敷地の一部が多賀城市の津波浸水想定区域に指定されたことから、「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災規程」を策定するとともに、「地震及び津波の基礎知識」の資料を作成し、職員や来館者に対して周知した。 ○防災、火災避難訓練を実施し、訓練の反省点をまとめ、来年度の実施要領等を見直した。	4	多賀城市の防災ハザードマップの更新にあわせ、リスクの評価を改め、マニュアルや訓練内容等を見直し、二次災害リスクの低減に取り組んだ。
	全	㉔	◎	災害に応じた適切な緊急点検を実施し、事業の中断を最小化します。	【管理部管理班】 ○防災訓練の反省点を踏まえ、解説員に対して、危機管理マニュアルを活用した防災関係の研修会を実施し、避難に対する意識の向上を図った。	4	行動マニュアルや機器操作など、現場スタッフの意見を踏まえ、研修を徹底し、非常災害時の体制づくりに取り組んだ。



## 8 変化する社会への対応

<p>コメント</p> <p>○宮城県博物館等連絡協議会の会長館・事務局として、限られた予算の有効活用に配慮するとともに、協議会の活性化に積極的に取り組んだ。</p> <p>○博物館学研究や博物館を取り巻く新たな課題等への対応に積極的に取り組んだ。</p> <p>○後進育成や社会貢献といった取組は重要ではあるものの、看過されることも少なからずあった諸課題を博物館活動の中に明確に位置付け、さらなる成果の向上に努めた。</p>
---

活動方針	担当	No.	重点目標取組	前期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 複雑化・多様化するニーズや自然災害等の新たな課題に対して、東日本大震災で得た貴重な知見を活かし、博物館職員の技術向上や県内外の博物館施設等の連携等の手段により、協働して諸課題への対応の検討を進めます。	学芸企画管理	25	◎	宮城県博物館等連絡協議会の会長館・事務局として県内博物館との連携を深め、会員館の要望を的確に捉えながら協議会活動の充実を図ります。	<p>【学芸部学芸班】</p> <p>○23館35名の参加を得た令和5年度第1回研修会、25館46名の参加を得た第2回研修会、冊子「宮城県の博物館2023」刊行及び会員館アンケートの実施等により宮城県博物館等連絡協議会の会員間の連携が強化され、活動の充実が図られ、業務は概ね順調に進行した。</p> <p>【管理部管理班】</p> <p>○宮城県博物館等連絡協議会の活動内容を把握し、当該団体に対して、事務局運営や会計など適切な事務処理ができるよう支援した。</p>	4	宮城県博物館等連絡協議会では研修会の質的充実を目指し鋭意活動を進め、その成果が顕在化しつつあり、当該協議会活動の充実が図られた。
	学芸	26		外部研修の受講等を通じて最新の成果を積極的に吸収し教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究を推進します。	○リモート受講を含め、4件の外部研修に参加し、最新の博物館学研究の成果を獲得するとともに、その成果を閲覧及びデータ格納等により非受講職員と共有することで館全体での資質向上を行い、業務は概ね順調に進行した。	3	進展著しい博物館学の研究成果を速やかに獲得するため、外部研修の成果を受講者のみならず組織として共有するプラットフォームを構築し、館全体で研究を進めた。
	学芸情サ	27		博物館実習等による後進教育、キャリア教育等による学校教育対応を進め、博物館の存在価値を高めます。	<p>【学芸部学芸班】</p> <p>○博物館実習18名、東北大学連携大学院「文化財科学」1名といった後進の受入・指導を行い、後進育成に貢献し、中学生総合学習のうち職場体験学習など16件の研究、研修及び教育等への受入対応を行うなど社会貢献を果たしており、業務は概ね順調に進行した。</p> <p>【管理部情報サービス班】</p> <p>○職場体験学習では、周辺地域の中学校3校(計7名)を受け入れ、博物館の役割や仕事内容の理解を目的として、各2日間のプログラムを実施した。また、担当職員の工夫により、魅力ある博物館の仕事内容に係る体験するプログラムを実施した。</p>	4	○他館と比較しても充実したカリキュラムにより後進育成及び社会貢献等を積極的に進めた。 ○博物館実習により学生が職業選択するうえでの、貴重な体験研修を提供できている、今後は体験研修の運営方法も検討し業務の改善につなげたい。
	学芸	28		博物館に求められる社会的課題への理解を深めます。また、繰り返される自然災害では必要に応じ、県文化財課等と連携して専門的助言を行います。	(学芸部学芸班) ○社会的包摂など博物館を取り巻く新たな課題に対して情報収集及び調査研究などを行い、その成果に基づきユニバーサル・デザインに配慮した一部印刷物の刊行を進めたり、その意義や重要性を学芸・企画職員等で共有して気運醸成を図ったりするなど課題への理解及び実践を実施し、業務は概ね順調に進行した。	3	博物館における社会的包摂やいわゆるユニバーサル・ミュージアムについて、情報収集を積極的に行うとともに、その応用と実践に取り組んだ。
総合評価				<p>○「常設展示・企画展示」では、常設展等更新ワーキンググループを組織し、展示室等の更新・改善について具体的な検討を行った。特に、展示施設設備のリニューアルについて、概要、事業費等の検討に着手できた。また、特別展では、大規模な共同企画展を実施し、多様な世代の来館者の利用を促進できた。</p> <p>○「教育普及」では、学校団体向けに学習シートの活用や学年に応じた利用プログラム、具体的な見学プランを提案するなど、効率的に館内を利用できるよう支援することで、当館の魅力を発信することができた。</p> <p>○「調査・研究」では、その成果はもとより、外部資金導入など現実と折り合いを付けながら活動を進めた。</p> <p>○「資料の収集と保管・活用」では、老朽化・狭隘化する施設の維持管理を進め、さらには可能な限り良好な保管環境の実現を目指して活動した。</p> <p>○「情報の発信」では、より幅広い世代への情報発信に心掛け、博物館の魅力を伝えられるように努めた。</p> <p>○「地域連携・県民参加」では、多賀城市と多賀城創建1300年記念事業に向けた連携に努めた。また、友の会の自立運営に向け支援を行った。さらに、継続的な広報活動により新たに4校のキャンパスメンバーズを獲得した。</p> <p>○「危機管理」では、円滑な工事執行と計画的な整備により、来館者と資料の安全が確保された。また、非常時に備えたマニュアルを加除し、総合防災訓練などの実施を通じて、実行性のある体制づくりを図ることができた。</p> <p>○「変化する社会への対応」では、新たな課題への対応など手探りの状況のなか、どのような方向性で理解を深め、どのように博物館活動に活かすか検討を進めた。</p>	3	<p>○今年度の実績及び成果を踏まえ「ほぼ達成されている」と評価した。</p> <p>○本館の設置理念を着実に具現化するとともに、社会の変化や成熟に対応しながら、個別取組を進め、本館のさらなる利用促進に繋げたい。</p>	

◎: 前期中長期重点目標 ○: 令和5年度重点目標(取組)